



図書館だより



読書週間企画第4号をお届けします。今回は、第3学年を担当される先生方に紹介していただいた本を掲載します。

秋の特集として編集してきたこの図書館だよりですが、先生方から56冊もの素敵な本が紹介されました。先生方、お忙しいなか、ありがとうございました。図書委員一同、この場にてお礼申し上げます。

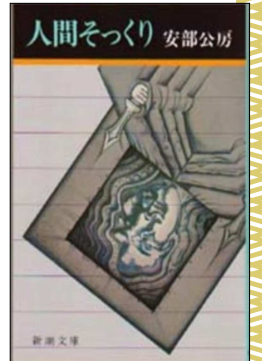
教室で図書館だよりが配られたその日に、「〇〇先生の推薦してた本はまだありますか？」と図書館を訪れる生徒の皆さん、そして先生もいらしゃったとのことでした。先生方から“本を通してのメッセージ”を全校生が受け取れたかと思えます。

今度は・・・みなさん(全校生徒)から、先生方に「この本、お薦めだよ」というメッセージが送れたら、いいですね。

鶴巻 勝理

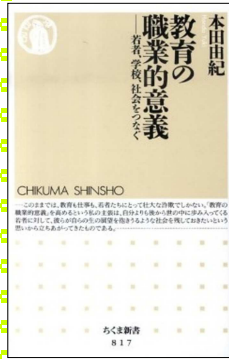
『人間そっくり』 安部公房著 新潮社

自分が「人間」であることを、あなたはどうかやってみて証明しますか？ある日、男のもとに「人間そっくりな火星」がやってきます。人間そっくりな火星人は、人間そっくりなので人間と見分けがつかせん。自分を自分たらしめていた「あたりまえ」——突然現れた火星人は、人間のいちばん深いところにあるものを揺さぶります。



永井 一哉

『教育の職業的意義—若者、学校、社会をつなぐ』 本田由紀著 筑摩書房

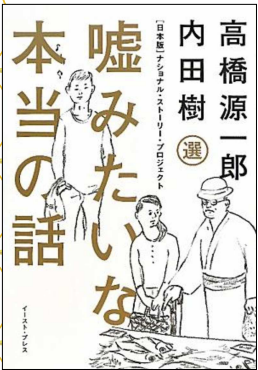


若者が夢を持っていないのはなぜか。また、夢を持った若者が実現に向けて行動できないのはなぜか。社会学的見地から、学校と社会をつなぐミッシングリンクについて考える1冊。本書を読んで、陽明学の「文武一徳」「知徳合一」を思い出した。併せて、「若者」視点からの古市憲寿『絶望の国の幸福な若者たち』もお薦めする。

中村 達

『嘘みたいな本当の話』

内田樹・高橋源一郎・編集 イースト・プレス



題名の通りさまざまな人が経験した「嘘みたいな本当の話」を集めた本です。「こんな経験をする人もいるのだ!？」と素直に驚く話が多いです。なかでも「あとからぞっとした話」の中の「日曜日の夜、コンビニで。」は・・・本当にぞっとします。肩の力を抜いて読んで下さい。

戸井田 翔太郎

『「立石諒」追い抜く力 ~憧れのヒーローから勝ち取った世代交代』 藤江直人著 イーストプレス

憧れのヒーローを破って手にした銅メダル。波瀾万丈に富んだ競技人生の軌跡。ロンドン五輪の競泳男子平泳ぎ200m、ラスト5メートルで先行する北島康介選手を逆転。見事に銅メダルを獲得した23歳の若きスイマー、立石諒選手の波乱万丈に富んだ競技人生を追ったノンフィクション。

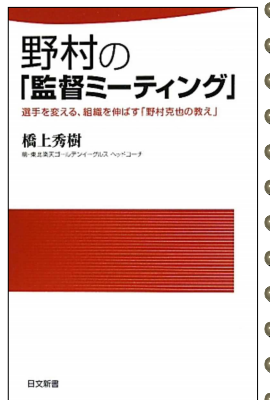


木野内 聡

『野村の「監督ミーティング」』 橋上秀樹著 日文新書

ある先生から貸していただいた本です。野村監督が楽天時代に行っていたミーティングの内容が記されています。野球のことだけかと思いきや、人間の心理や人として必要な常識など野球を知らない人でも読みやすくなっています。

自分自身のことと置き換えて読むことができ、今後生きていく中で参考になる1冊となると思います。



榎村 敦雄

『YELLOW EAGLE(イエロー・イーグル)』
池田伸著 A-Works

「作る人」＝「高橋吾郎」＝「イエロー・イーグル」。この本には、日本人でありながらインディアンになった男の生き様と魂の言葉が記されている。何よりどのページをめくっても、美しい写真や趣深いインディアンの言葉が心を揺さぶり動かす。環太平洋モンゴロイドの同種族として、忘れかけた感覚や魂を刺激してくれる一冊。



河野 邦弘

『いばらぎじゃなくていばらき』
茨城新聞社

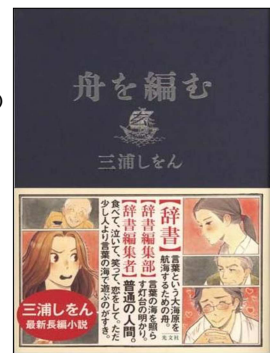
マックスコーヒーって知ってますか？入れ物が黄色の下地に茶色の縦縞模様の極甘コーヒー。実は茨城と千葉しか売ってません。(最近では栃木でも発見されています。)他にも茨城でしか通じない物や言葉がたくさんあります。普段何気なく使っている言葉がどれだけ県外に通用するのか。茨城県を愛する人へのマニアな本です。



海老沢 宏子

『舟を編む』
三浦しをん著 光文社

辞書を作るというのは地味な世界の話です。言葉は、時代の流れによって言葉の持つ意味が変わったり、使われなくなったり、新しく登場する言葉があったり、私達と同じように日々生きているのです。「辞書は、言葉の海を渡る舟だ」辞書のおもしろさと、こんな世界があることを知って下さい。



片山 正男

『夢をかなえるゾウ』 水野敬也著 飛鳥新社



平凡なサラリーマンが「神様」を名乗る謎の生物・ガネーシャの指南によって自らの人生を変えていく物語です。各章の最後には、ガネーシャの課題が書かれています。本を読みながら、ガネーシャの課題にチャレンジするという楽しみ方ができる1冊です。

安 めぐみ

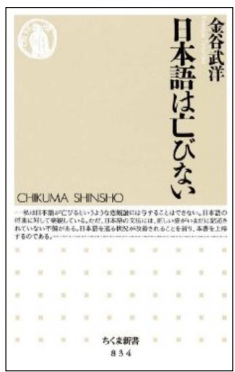
『ヤマサ醤油のしょうゆ合わせ米麴レシピ』
五十嵐豪著 世界文化社

こいくちとうすくち2つのしょうゆ合わせ米麴とは、話題の塩麴よりさらにうま味が7倍、そして塩分は約半分、とてもヘルシーで優秀な魔法の合わせ調味料のこと。健康でいるために「食」の大切さを痛感するこの頃、手短かに「かける」だけ、「和える」だけの簡単レシピはとても魅力的。レポートリーを広げて「食」を楽しんで！



秋山 康夫

『日本語は亡びない』 金谷武洋著 ちくま新書

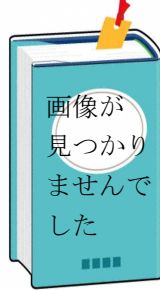


中学時代、国語の授業で「主語がある」と習った。しかし、どうしても腑に落ちず、「日本語に主語はありますか？」と国語の先生に尋ねたら、「省略している」という人もいた。ようするに「ある」ことになる。でも、好きな人に、英語は”I love you.”と言うが、日本語で「好きです。」と言わず、「私は、あなたが好きです。」と言うと、砂を噛んでいるような気持ちになるのはなぜだろうか？

榎野 忠秋

『文学をどう読むか』
佐古純一郎著 現代教養文庫

明治以降の日本の作家たち(特に、芥川竜之介・有島武郎・太宰治らの系譜)が西洋思想をいかに受容したかを論じた評論集。高2の時この本をポケットに入れて歩いていたら、向こうからやって来た著者本人に出会う運命が待っていた。2日間、人間(じんかん)の思想について話を聞く。著者はのちに二松学舎大学学長。アマゾンなら1円。



新刊案内

…いろいろな本があります☆ 冬休みにいかがですか？…

